

# 十勝農業試験場 参観のしおり

令和4年5月



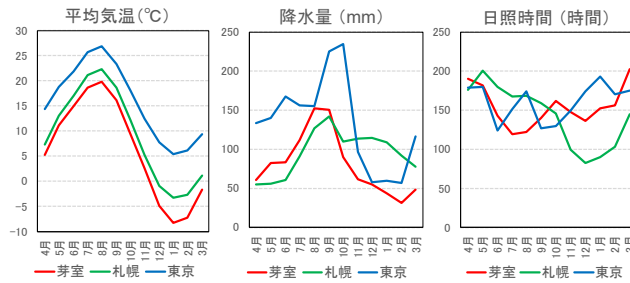
豊かな十勝農業をめざして



地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
十勝農業試験場

〒082-0081 北海道河西郡芽室町新生南9線2番地  
Tel.0155-62-2431 Fax.0155-62-0680  
tokachi-agri@hro.or.jp  
<http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/tokachi/index.html>

## 十勝の気象

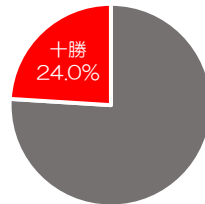


5~10月	積算気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (時間)
芽室	2,765	671	869
札幌	3,192	586	1,022
東京	4,127	1,078	886

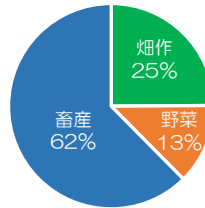
各アメダス地点における1991~2020年の平均

## 十勝の農業

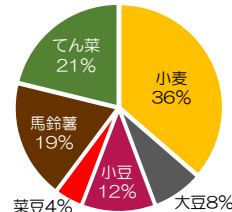
全道に占める 十勝  
の農業産出額の割合



十勝の部門別  
農業産出額

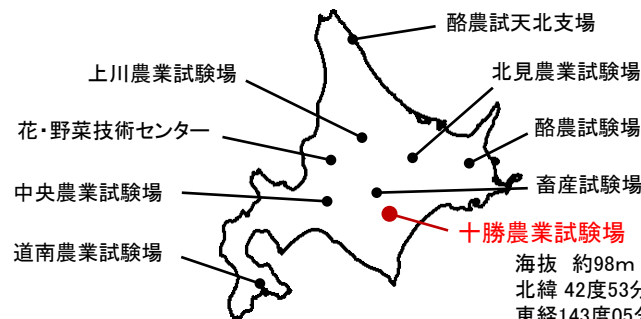


十勝の畑作物  
作付面積割合



令和2年度市町村別農業産出額(農水省)、  
および2021十勝の農業(十勝総合振興局HP)より

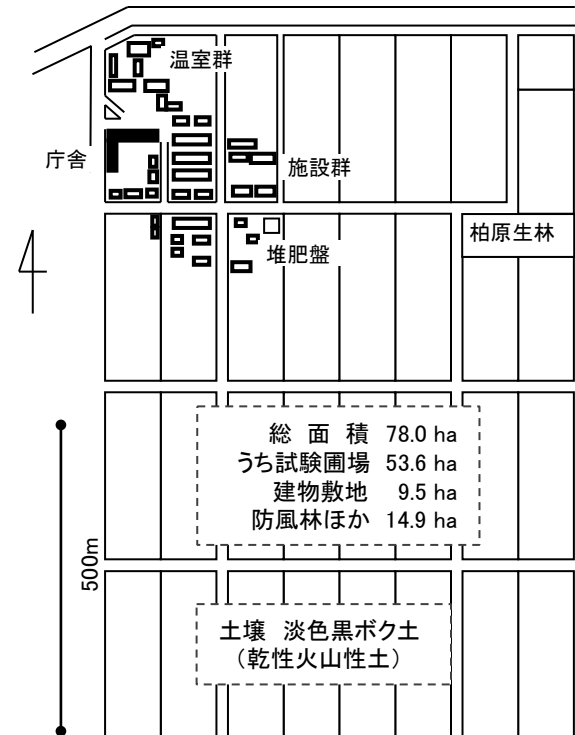
## 各農業試験場等の位置



## 沿革

- 1895(明28)年 十勝農事試作場を下帯広村に設置(国費)
- 1901(明34)年 北海道庁地方農事試験場十勝分場
- 1908(明41)年 北海道庁立十勝農事試験場
- 1910(明43)年 北海道農事試験場十勝支場(国費)
- 1950(昭25)年 北海道立農業試験場十勝支場(国/道分離)
- 1960(昭35)年 帯広市から現在地(芽室町)に移転
- 1964(昭39)年 北海道立十勝農業試験場に改称
- 2010(平22)年 地方独立行政法人に移行

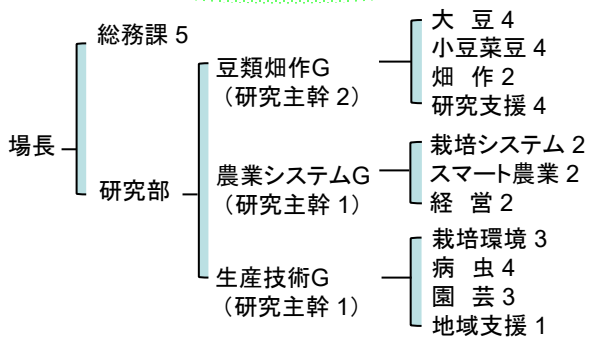
## 圃場図



## 主な研究施設

病理昆虫実験室、バイテク実験室、温室およびガラス室(5棟)、低温育種実験室(2棟)、短日育種実験室、てん菜糖分分析室、豆類乾燥施設、馬鈴しよ催芽貯蔵施設、農業機械実験室、土壌・作物診断室、てん菜育苗施設、など

## 組織 (G=グループ)



職員数 42名(令和4年4月現在)

独法職員37名(研究職 33名、技能職 4名)

道派遣職員 5名(行政職)

十勝農業試験場技術普及室(道職員3名の駐在)

## 豆類畑作グループ

### ■大豆

北海道の各地域の気象条件に適した大豆品種の開発を行っています。

低温や湿害への耐性および病害虫への抵抗性があり、多収でコンバイン収穫適性が高く、豆腐・煮豆・納豆などの加工適性に優れた品種の育成を目標としています。

### ■小豆菜豆

北海道の各地域の気象条件に適した小豆、菜豆(金時、手亡など)の品種開発を行っています。

小豆は、低温への耐性および土壌病害への抵抗性があり、多収でコンバイン収穫適性が高く、餡・甘納豆などの加工適性に優れた品種の育成、菜豆は、倒れにくく多収で、病害への抵抗性があり、煮豆・甘納豆・餡などの加工適性に優れた品種の育成を目標としています。

### ■畑作

十勝の主要な畑作物である小麦、馬鈴しょ、てん菜について、新品種開発のための地域適応性検定、特性検定を行っています。

### ■研究支援

作業計画の調整、耕起・施肥・畦切・薬散などの機械作業、圃場の管理、機械・車両の管理、場内環境整備を担当しています。



## 主な育成品種と新技術

### ■最近の育成品種

・大豆「ユキホマレR」(H22)

「とよみづき」(H24)

「とよまどか」(H30)

・小豆「ちはやひめ」(H28)

「エリモ167」(H29)

「きたひまり」(R3)

・菜豆「かちどき」(H29)

「きたロッソ」(H29)

「秋晴れ」(H31)

・ながいも「とがち太郎」(H25)



### ■最近の新技術・試験成績

・クリーン農業による畑地からの温室効果ガスの排出抑制効果(R4)

・抵抗性“強”品種におけるマンゼブ水和剤を用いたテンサイ褐斑病防除法(R4)

・ジャガイモ黒あし病の菌種による発病の特徴と種いも以外の伝染経路(R4)

・組動における経営指標値を用いた経営分析プログラムの開発と実装(R4)

・小豆の作付維持・拡大に向けた収穫体系の経済性評価(R4)

・衛星画像と地形情報を活用した圃場内の土壌物理性不良エリアの判定技術(R3)

・秋まき小麦の起生期からの変追肥体系による収量の安定化効果(R3)

◆これまでに出版された研究成果は、道総研ホームページの「農業技術情報広場」より検索できます。

## 生産技術グループ

### ■栽培環境

リモートセンシングなどを活用した効果的な土壌・生育診断技術の開発、安定的に多収となる効率的な施肥技術の開発、堆肥など有機物や有機質資材の活用法の研究を行っています。

また、新しい肥料・土壌改良剤の実用化や環境保全対策、土壌調査などにも取り組んでいます。

### ■病虫

十勝地域の主要な畑作物および露地野菜を対象に、発生生態や発生状況に応じた環境にやさしい防除法の開発を行っています。

また、病害虫の発生予察、病害虫診断、新農薬の効果査定試験などを行っています。



### ■園芸

十勝地域で導入が進む加工業務用野菜の省力栽培技術の開発、および安定供給体系の確立に取り組んでいます。

また、やまのいも類など高収益野菜の安定多収栽培技術の開発を行っています。

### ■地域支援

技術普及室と連携し、地域へ新技術を普及するための実証試験や、地域農業技術支援会議を通じた活動により、地域農業の技術的課題の解決を図っています。

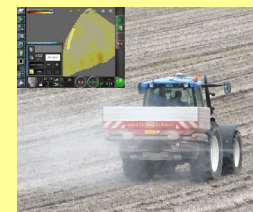
## 農業システムグループ

### ■栽培システム

生産コスト低減、省力化・高能率化の視点に立って、作物の播種・施肥・収穫などの栽培システムやバイオマス資源の利活用に関する試験研究を行っています。

### ■スマート農業

労働力不足の補完や生産性の向上を目指して、自動操舵技術・ロボットトラクタの利活用に関する試験研究、生育センサや衛星・ドローンにより取得した情報を活用した精密農業技術の開発を行っています。



### ■経営

新技術を導入する際の経済性の評価や最適な導入条件の研究、高収益・低コスト経営の確立に向けた経営管理手法の開発、個々の経営をサポートする地域的な支援体制のあり方に関する研究を行っています。

## 十勝農業試験場技術普及室

道の普及指導員が在勤し、農業改良普及センターの活動支援や、十勝農試と連携した地域支援活動を行っています。